

## 私の軍隊経歴

新潟県 大場 秋 蔵

私は終戦を済州島で迎えたので軍隊手牒を今でも持っている。ほとんどの兵隊は軍隊手牒を終戦時に焼くか、捨てるか、あるいは外国軍に没収された。だから現在になって銀杯、書状等の申請が始まった時、自分の兵籍が不明で困っている者が多い。

私は昭和八年十二月に近衛歩兵第二連隊に現役兵として入営した。当時近衛にはいる壮丁は町で一人か二人しかいなかったほど名誉ある選抜であり、身内に思想の悪い者、病気の者がいないか警察がひそかに調べていたらしいが、私は気がつかなかった。

入営一か月ちょっとで二等看護兵（当時は衛生兵といわなかった）になり、半年後には上等看護兵勤務を命ぜられ、入営十か月後に精勤章をもらい、一年目には上等看護兵になっていたから自分ながら進級が早いのに驚い

たぐらいです。

昭和十年六月帰休除隊の時は善行証書をもらいました。その間、十年四月九日には満州国皇帝の御来朝を記念する近衛師団觀兵式があり、二円五十銭の酒肴料がでたものでした。今のお金でいくらになるんでしょうか。

衛生兵でしたから一般兵料の兵隊のように訓練、演習等は楽でした。手牒をみると自分の知らないうちに部隊の編成がえや、転属があったように書いてある。同じくはいった者同志がうえの命令の通りに従っていただけが、いろいろの地名や部隊名が書いてあって、今から懐かしく思ったりしている。

現役を入れて合計四回営門をくぐっており、今、生きているのはよほど運の強い星のもとに生まれたものよと感謝している。

十六年七月の召集で朝鮮の羅南の第十九師団衛生隊にはいったが、十七年十一月三日、歩兵第七十六連隊第三中隊に転属となった。

この連隊は二年後に比高で全滅に近い損害を受けている。私は現役兵の入隊と引きかえに召集解除になり、内

地に帰ったが、あの時にはいつてきた現役兵はほとんど戦死している。

第三回目の召集は二十年一月羅南陸軍病院要員として東部第二三部隊菅原隊に編入され仙台出発、博多、釜山をへて羅南に行き、六月に衛生兵長になったと思つたら、すぐに独立山砲兵第二十連隊に転属です。

咸鏡北道鏡城というところで隊付衛生兵として勤務しました。山砲連隊といつても当時の装備は貧弱で、山砲は訓練用の旧式のもので、とても戦いにはならないシロモノでした。

七月南方行きかわかりませんが濟州島に移動となり、麗水港から乗船すべく七月十六日麗水に着き海岸に出ると、現地の人が大勢で米俵や味噌樽や衣服を、さかんに乾かしているのて聞くと、昨日出港した輸送船が港を出てすぐ米潜水艦にやられ、その漂着した物を始末しているとのことでした。明日はわが身かと気味悪く思いました。

七月二十二日乗船した時は天に無事を祈りました。その日のうちに濟州島に上陸、やれやれでした。南方へ行

けなくなつたのかわかりませんが終戦を濟州島で知り、十一月八日復員のため出港、十日九州佐世保着、翌十一日召集解除となり、これが私の軍歴の終了です。

なお九月一日で陸軍衛生伍長に任官と記されています。

## 北朝鮮会寧歩兵砲隊

現役三か年

新潟県 渡辺 孝三郎

—現役で入営したそうですが、どこへ行ったのですか。

私は大正八年十一月生まれで、十四年の徴集兵です。十四年十二月現役で入隊ですが、大阪へ集合し、区役所で軍服に着がえ、それを自宅へ送りかえし、翌日、大阪城を見物（軍服を着て）したが、平時だから出来たのでしよう。

「私も三年勤めればいいのだ」と思った。大阪港で貨物